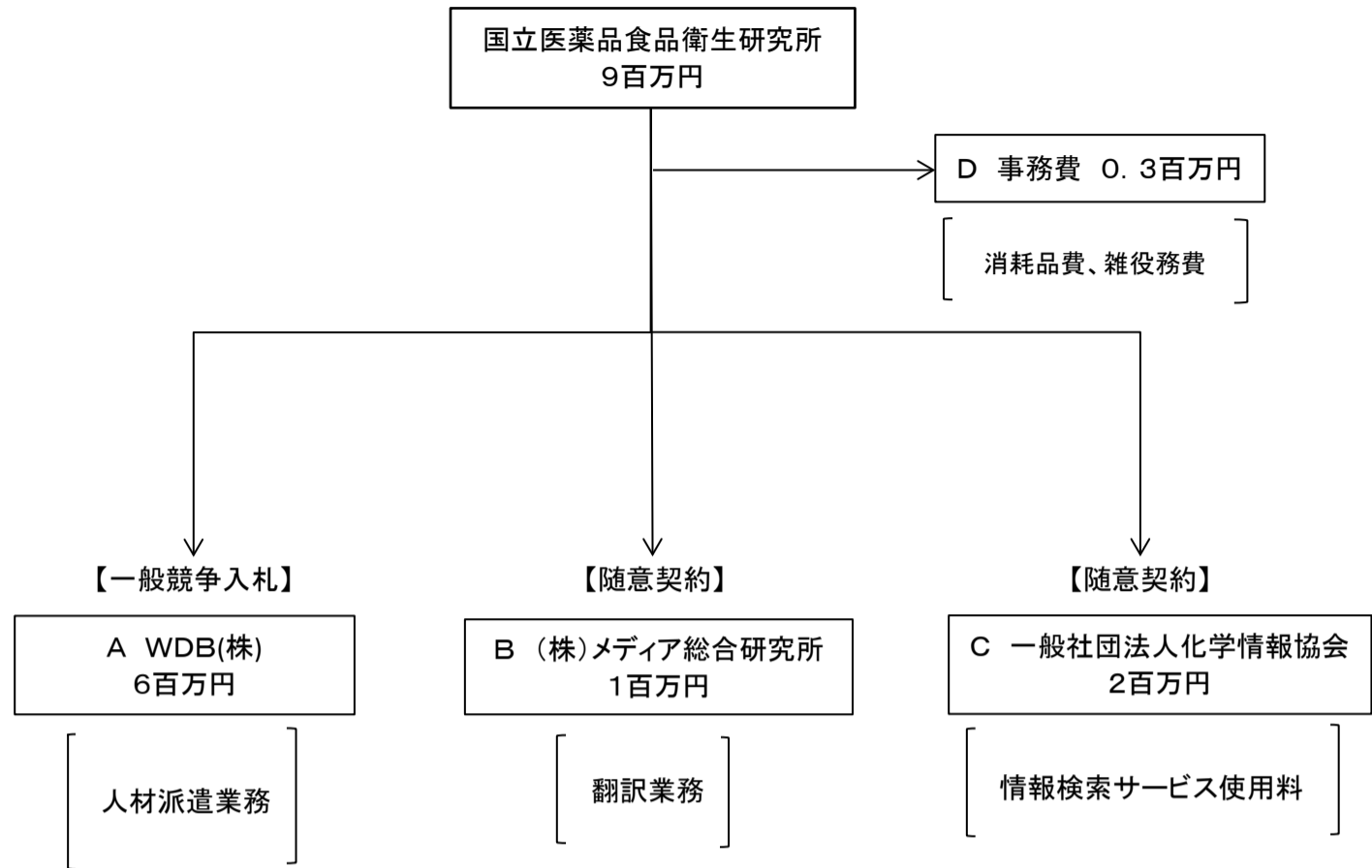


平成24年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	化学物質による緊急の危害対策を支援する 知識情報基盤事業費		担当部局庁	国立医薬品食品衛生研究所		作成責任者			
事業開始・ 終了(予定)年度	平成13年度		担当課室	総務部会計課		渡邊 裕一			
会計区分	一般会計		施策名	VI-3-4 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保する					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—		関係する計画、 通知等	—					
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	大規模な化学物質事故や化学物質テロに対応するため、有害化学物質のヒト健康影響に関する情報を収集・分析し、効率的な情報発信及び検索システムを構築することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	<p>化学物質に起因する緊急危害対応に必要な情報の収集・蓄積・評価を行い、これらの情報を緊急時の化学物質安全性に関わる全ての関係者(医療・公衆衛生関係者、行政担当者、企業担当者)が必要な時に迅速かつ容易に活用できるようホームページで提供する。</p> <p>①有毒物質の毒性、物性、被害事例等に関する国内外の情報の収集・調査を行う。 ②米国AEGL(急性暴露ガイドライン濃度)情報の翻訳・編集・蓄積と効率的な活用法に関する研究を行う。 ③毒物劇物取締法データベース等のデータ更新及び管理を行う。</p>								
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		補正予算	/						
		繰越し等	/						
		計	9	9	9	9	8		
	執行額	9	9	9	/				
	執行率(%)	100%	100%	100%	/				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (22年度)		
	ホームページの毒劇物関連サイトへの年間アクセス数	成果実績	アクセス数	約10万件	約10万件	約10万件	約10万件		
		達成度	%	100%	100%	100%	/		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込		
	毒劇物の新規評価物質の評価文書の作成。 また、毒劇物約500項目以上のデータベースの更新	活動実績	新規評価文書数 (総ページ数)	8 (約800ページ)	8 (約800ページ)	8 (約800ページ)	— (8)		
		(当初見込み)		(8)	(8)	(8)	(8)		
単位当たり コスト	—		算出根拠	化学物質の毒劇物妥当性評価には多くの背景資料・情報を収集、調査、評価、解析する必要があるが、単位(文書数)あたりの必要経費は異なっており、単純な平均値から費用対効果を測ることは適当ではない。					
平成24・ 25年度 予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	試験研究費	9	8	消耗品費等の見直しによる減					
	計	9	8						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	ホームページへのアクセス数は年間約10万件を数え、専門家による信頼性の高い文書として、企業関係者をはじめ、広く一般に利用されている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	毒劇物は、毒劇物取締法により指定されるため、その評価には独立性・中立性が必要とされることから、国の機関が行うべき事業である。
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	—
資金の流れ、費目・使途	△	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	少額随意契約の対象金額を超える案件については、一般競争入札を実施し、競争性を確保した。また、随意契約の場合であっても複数者から見積を徴収し、最廉価格の者と契約を締結した。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	—
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	必要な経費に限定されている。
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	事業目的達成のために効率的な方法で実施しており、また毎年度成果も着実にあげていることから、他の手段と比較して、実効性は高いと考えられる。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	ホームページへのアクセスは毎年約10万件あり、化学物質に起因する緊急危害対応に必要な情報を広く一般に提供するという目標を着実に達成している。
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	活動実績は見込みに見合ったものとなっている。
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	—
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	—
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	毒劇物ホームページへは年間10万件のアクセスがあり、関係者(医療・公衆衛生関係者、行政担当者、企業担当者)に広く活用されている。
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・HPへのアクセス数は年間約10万件を数え、関係者(医療・公衆衛生関係者、行政担当者、企業担当者)から信頼性の高い重要な情報源として需要が大きいため、引き続き現在の水準を維持していく必要がある。 ・執行管理表により支出先及び使途等について管理を行い、経費の適切な執行に努めている。 		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	本事業は、医薬品食品、化学物質の研究に必要な経費であるが、執行状況及び事業計画を見直し、必要な予算計上とすること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	事業実績を踏まえ、事業に必要な経費を精査し、消耗品費等の見直しを行った。 (反映額: ▲0.9百万円)		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	588	平成23年行政事業レビュー	535

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.WDB(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	人材派遣業務	6			
計		6	計		0
B.(株)メディア総合研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	翻訳業務	1			
計		1	計		0
C.一般社団法人 化学情報協会			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	情報検索サービス使用料	2			
計		2	計		0
D.(株)カラサワ			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
消耗品費	研究用消耗品の購入	0.1			
計		0.1	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	WDB(株)	人材派遣業務	6	1	80.2%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)メディア総合研究所	翻訳業務	1	随意契約	

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	一般社団法人 化学情報協会	情報検索サービス使用料	2	随意契約	

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)カラサワ	研究用消耗品の購入	0.1	随意契約	
2	(株)ジーサーチ	文献複写業務	0.1	随意契約	
3	(株)サンメディア	文献複写業務	0.1	随意契約	
4	(株)日本生化学会	研究用消耗品の購入	0.04	随意契約	